

## 二席 沖縄県文化振興会 理事長賞

栞田 美和

型彫りす手のなす影が濃くなりぬていだの光は夏になりゆく  
 糊を置く湿度みやればどこよりも早き梅雨明け薫風の吹く  
 朱色差し優しくこするていだの日に負けぬようにと言い聞かせつつ  
 水に溶け落ちゆく糊は台風の後の花びら鳳凰木よ  
 紅型で色鮮やかに舞う鳥ら古典の記憶背負いここまで

## 佳作

東恩納 きよし

繋がりにし離床センサー無音のまま母の眠りの静かに続く  
 若き子の慣れぬ方言駆使しつつ入浴介助する声優し  
 センターの完全看護の世話に慣れ家のくらしに遠くなる母  
 車椅子押して歩めば無言にて母のうなじに老いの翳深し  
 骨折後足腰萎えて老い母は排泄のみに立つ身となれり

## 佳作

嶺井 雄八

七夕に大きな願い一つあり人の住む星青ききままあれ  
 手が滑り落とした物が拾えずに妻の帰りをじっと待ちいる  
 稲光知らぬめしいは雷鳴とどしやぶりの音ただ聞くばかり  
 梅雨雲をはらいゲームの進みゆく少年野球の競りあうを聞く  
 喉自慢の夢の舞台で歌うわれ二千二百の手拍子受けて

## 佳作

五十嵐 裕唯

簡単に優しい言葉をいわないで期待してまた壊れてしまう  
 恋なんてきつと私には無関係そうやってあたし臆病になった  
 幸せな夢から覚めて悲しくなる自分が少し可哀想です  
 夜の手が目を、口を、耳をふさいでいく私はひとり赤ん坊になる  
 無に帰する夜空に埋めし私の身を笑ってくれるか秋風が吹く

## 佳作

ハーモニカ売る青年の空腹は五月の空の青にも染まず

安里 琉太

病室の窓を放てば海の音少女よここを夜汽車と思へ

蝶過ぎて指輪外せりひらがなのほどけさうなる文書きをれば

冷蔵庫にくもる眼鏡を笑ひあふその夜もつともモルヒネつかひ

日矢に舞ふ麦のほこりを遠き日の天使の降るるはやさに思ふ

## 佳作

宮城 鶴子

仔を孕む牛はもくもく草を食む乳房の脹れて予定日近し

産気づき牛は力みて幾度もへたりては立ち漸く産る

ふんばりて産みし仔牛の濡るる体愛しむ如く舐むる母牛

確と立ち仔牛は乳を飲み始む牛舎に青葉の風のふき抜く

牛飼は未だ娶らず四十頭の和牛を飼ひて休日もなし

奨励賞（小学生短歌）

金城 千佳

さんしんの  
音にひかれて  
進んで行くと  
そこにはやさしい  
音達がいた

夏の空

色んな星ざ  
いっぱいだ  
明るく光って  
おしゃべりしてる

ドンドンドン  
太こを持って  
ドンドンドン  
ご先祖様を  
おむかえするよ